



和して同ぜず

帝塚山学園学園長 富岡 将人

学園の「第4次中期計画」に学園のあるべき姿として「帝塚山教育を通じて変化する時代に選ばれ続ける総合学園を目指す」と謳っており、また、このあるべき姿を実現するため次の3つの柱を示しています。

- (1) 教育内容の質の向上
- (2) 組織力の強化
- (3) 財政の健全化

そして、これらを進めるため中期計画の行動計画や各年度事業計画に目標成果物と共に具体的に記載していますし、財政の健全化には、別途「財政健全化計画」3部作の大学編・中高編・小学校・幼稚園編がございます。

勿論、私達はこれらを達成しなければならぬ訳ですが、達成への原動力は組織力です。しかし、組織があっても、たとえ一人一人に能力があっても目標に向かって組織的行動を取らなければ力にはなりません。極端に

言えば烏合の衆になり兼ねません。

このことから、私は新年の教職員幹部への挨拶で、今年のテーマは組織力の強化だと申し上げ、経営学者のC・I・バーナードの組織成立の3条件、

- ① 共通目的
- ② 協働意欲
- ③ コミュニケーション

に触れながらお話しさせていただきました。そして、組織人としては「和して同ぜず」に尽き、よく議論をして決まったら協調していく。主体性をなくしてむやみに同調することは、かえって危険ですと申し上げました。私は全教職員が「和して同ぜず」の気持ちになったとき、あらゆることが成就すると信じています。

皆さんはどう思われますか。